

(9) 4、5、6歳のころ

●運動能力は飛躍的に向上します。

4～5歳ぐらいでは、ケンケンやでんぐり返し、5～6歳ぐらいになるとスキップ、なわとび、鉄棒などができる子がふえてきます。また、指先も器用になって、ハサミが上手に使えるようになったり、靴のひもを結んだりもできます。

●大でもない、小でもない、「中くらい」がわかるということ

4歳までは、「大きい」か「小さい」かのどちらかでしたが、だんだん、その間に、「中くらい」の世界があることをわかるようになります。

●自制心が育っていきます

自分の欲求を自制してやり遂げようとするねばり強さができます。

これは、単に、我慢する、言われた通りにする、ということではなく、相手の気持ちを考えて、自分で自分を励ましながら感情も行動もコントロールできるようになるということなのです。情緒も安定してきますし、年下の子どもの世話なども進んでやるようになります。

●この時期のくせの意味

自制心を獲得していく時に、心の支えを求めている姿が、この時期のくせ（「指をなめる」「爪をかむ」「性器をいじる」など）や心のつえ（P59）なのです。

～よく遊び、よく遊べ～

この頃になると、テレビゲームなどにも興味をもち始めるんだ。テレビと一緒に、あの音や光、動きはボクの脳にビビッとくるんだ。でも、ほんとうは、体を使って遊ぶ方が好きなんだ。できるだけ外に遊びに連れて行ってね。できれば、パパが休みの日は、一緒に遊んでほしいなあ。



●多くの子どもが集団生活を体験する時期です。

保育がきっかけとなって、遊びが変わります。遊びの中で、役割とルールを学び始めます。ルールに基づいてゲームを楽しむトランプやカルタ遊び、鬼ごっこなど、楽しめるようになります。子ども同士の結びつきも強くなり、遊びなどでもお互いの協力関係が自然に芽生えてきます。

おうちが安らぎの場所であってほしい！

おうち、解放感を味わう場所であってほしいなあ。だって、保育園や幼稚園では、めいっばいがんばってるんだもん。だから、できることもできないって甘えなくなるし、ホッとしたくもなるんだ。そんなボクの気持ち受け止めてね。

●仲間の世界

5～6歳になると、大人から、心理的距離をおこうとするようになり、友達との冒険を始めます。まさに「小さなギャング」のように、徒党を組んでいたずらを楽しみます。

このような「仲間の世界」は、友達という存在の大切さに目覚めていくための世界であるとともに、絆が太いゆえに避けられない、ケンカやいざこざなども、自分たちで解決していく力を、一人ひとりの子どもに与えてくれる世界なのです。

子どものSOS

子どもは心の悩みを下痢、吐き気、食欲不振などの、体の症状で訴えることがあります。こうしたサインを見逃さないようにしましょう。

※ 今、友達との太い絆と、葛藤を乗り越える力をつくる大切な子ども時代が、次第に子どもたちから奪われつつあるために、いじめの問題などが起こっています。

この「小さなギャング」たちのための時間や空間があるかどうか、これからみなさんと考えていきたいものですね。

●1年生になる前の、ママのあせり

子どもをみていて、これで小学校大丈夫かしら？と心配するあまり、励ますつもりで、「○○しないと学校に入れないわよ。」と、言ってしまうようになります。

ママへ

「学校ってどんな楽しいところかな？」って、わくわくするどころか、「何かをしなければ入れない学校」になってしまうとつらいなあ。

「いっちなんせーいになったーらー」♪と、期待しながら入学を待ちたいなあ。

★ 子どもの悩心事 Q & A

Q 何をするにも動作がゆっくりです。性格ものんびり屋さんですが、このままだと小学校に入ってもまわりについていけないか心配です。

A 学齢期を迎える頃には、朝早く起きるとか、歯を磨くとかの生活習慣にも、それぞれの個性があらわれてきます。あまり細かく指示ばかりしていると、親の命令通りに動くだけの子どもになりかねません。子どものペースを尊重し、集団生活に支障のない程度でしたら、気長に見守りましょう。